# 別院しらべ隊
## 調査報告書No.２　匠の仕事

## 宮大工　花輪喜久藏

皆さんは、花輪喜久藏という方をご存じだろうか。彼は、明治元年気仙郡綾里村に生まれ、昭和十七年札幌の地で七十三歳の生涯を閉じるまで「生涯百か所の堂宮建立」の悲願を掲げ、社寺建設に従事された気仙大工界の巨匠である。

明治四十三年には旭川市招魂社（現在の護国神社）、大正三年には札幌別院山門、そして大正九年私たちの旭川別院本堂・大門・広間・庫裏。彼が手がけた社寺は、判明しているだけでも七十数カ所あるそうだ。

設計の技術もさることながら、彼がもつ彫刻の技術も素晴らしい。どこがどのように素晴らしいか、ここで述べるよりも実際に旭川別院に来てじっくり見て頂ければ、その技術を体感できることだろう。

そして、道北一を誇る旭川別院大門だが、設計図の段階では板木鼻で描かれているが実物は見事な唐獅子木鼻に造られている。設計図はあくまでも「案」であり、現場で変更することもあるようだ。彼の造り上げた彫刻を守るために網を掛けてあるが、大門をくぐる際には是非見事な唐獅子木鼻を見て頂きたい。

花輪喜久藏率いる花輪組が、機械ではなく緻密な手作業で造り上げた「旭川別院」を大事に守っていかねばならない。

## 建設当初の図案と現在の大門との違い

１、屋根……設計の段階では瓦葺きの図ですが、建立当時の写真では藁葺（わらぶ）きになっています。大正三年札幌別院では瓦葺きの大門を建立していますが、「すがもり」や瓦の落下等の事故があったのかもしれません。その為、藁葺きの屋根になったのでしょう。現在はトタン屋根となっています。

２、板木鼻（いたきばな）…板木鼻の部分が唐師子木鼻（からじしきばな）・龍木鼻（りゅうきばな）になっています。木鼻としての「格」が上がっています。お釈迦様の説法を獅子口（ししく）といい、仏様の力を「獅子」で表現しています。お内仏では金香炉の飾りになっています。「龍」は仏法を守護すると言われています。

３、大門壁…図面では四本線が画かれていますが、実際は線が五本入っています。一般的には皇族関係の寺院は壁に五本線が入ると聞きます。大谷派においては、昔、朝廷より門跡寺院と認められた寺院が五本線を許可されたようです。

４、扉の紋…現在は抱牡丹紋（だきぼたんもん）と八藤紋（はっとうもん）の２つになっています。抱牡丹は公家の近衛家から頂いた紋なので近衛牡丹とも言い、大谷家の紋として用いられています。日野家に生まれた親鸞聖人は藤原家の家系であり、その藤原家の紋が八藤紋で、宗派の紋として用いられています。

### ～ご報告～

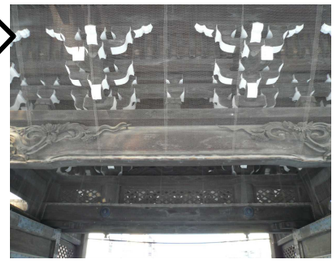
「別院しらべ隊」の調査委員が別院の建物の調査・視察してきました。その時の写真や映像を春彼岸の期間別院玄関にて放映できるよう、只今制作中です。しばらくお待ち下さい…

平成２２年２月１日制作　調査員：草部・垣原・横井ょ・高橋

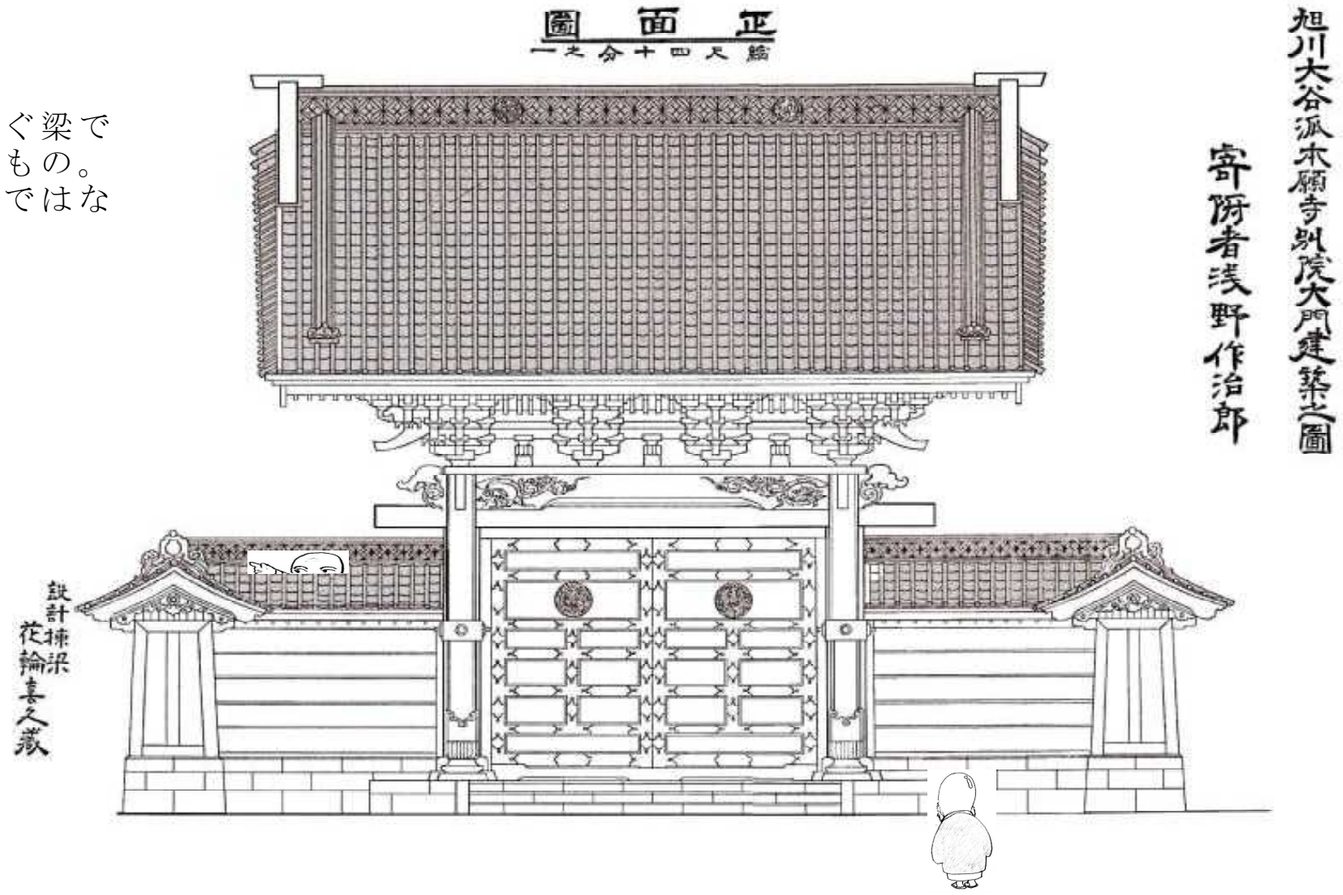
**降棟**（くだりむね）
大棟から降りてきている棟。
瓦葺き屋根の特徴であり、
藁葺き屋根には見られない。
創建当初は瓦葺きを予定していた。

**主棟鬼飾**（しゅむねおにかざり）
和式建築物の棟（大棟、隅棟、降棟など）の端などに
設置される板状の瓦の総称。装飾を目的とした役瓦。
棟の端部から雨水の浸入を防ぐことを主な目的としている。

**斗組**（ますぐみ）
柱の上にのせ、梁や肘木を
支える材（斗）
柱の上で斗と肘木を組み合
わせ軒を支える部分（組）



**虹梁**（こうりょう）
寺建築に使用し、母屋柱をつなぐ梁で
中央部分が上向きにそっているもの。
柱に近い彫刻は普通の「唐草」ではな
く、「菊」の模様である。



**板木鼻**（いたきばな）
頭貫などの端が柱から突出
した部分で、彫刻などを施
す。

**懸魚**（げぎょ）
屋根の妻の部分に垂れ下げた
飾りで、もともとは火災除け
として飾られていた。古くは
掛魚と書き、水を連想する魚
を破風に掛けることに由来す
るという。また、棟木や桁の
先端を隠す目的ともいう。